

## 平成21年度「専修学校留学生総合支援プラン」成果報告書

事業名	関西型留学生就職支援基盤の構築		
法人名	社団法人 大阪府専修学校各種学校連合会		
学校名			
代表者	会長 福田 益和	担当者 連絡先	梶山武志
<b>1. 事業の目的・概要等</b>			
<p>近年採用数を高めてきた留学生の採用を取り巻く環境は、平成20年9月の大不況以来大きく変化した。従来よりもシビアに、学生の日本語力・専門技能そしてやる気と日本企業への適合性を求めるようになったことである。一方で、就職を目標にした留学生のニーズは、できるだけ短期間で確実に就職したいというものである。これらを解決するには、指導目標を明確にするとともに、指導方法を確立して、教育することが大切である。</p> <p>従来この分野は、海外へ進出した日本企業、進学という目的を中心にして日本語学校、そして幾つかの専修学校専門課程（以下、専門学校と記す）・大学が試行錯誤してきた。しかしながら、事務的なマニュアルは整いつつあるものの、留学生に特化した職業教育そのものは十分とはいえないし、また日本企業から安心・信頼される人物像が目標になっていなかったように思われる。各校や企業の垣根を払いノウハウを結集して、留学生に対する職業教育の方法を確立するのは、不況期である今を置いてない。</p> <p>大阪府専修学校各種学校連合会（以下、大専各と記す）は2年前に留学生委員会を設置し、留学生に対する職業教育や企業や日本語学校とのネットワークづくりに着手してきた。昨年度は、留学生担当者研修、進学フェア、就職促進セミナー、日本語学校との連絡会などを開催している。この活動を通じて、会員校の中に絆や幹事校の間に信頼関係も構築できてきているところである。一方で、ヒアリングなどを通じ企業や日本語学校から望まれる改善点についても知見を得てきていた。</p> <p>今回、この体制を拡充し、3ヵ年計画で、入学前から就職後を通じた留学生の就職支援体制、即ち来る留学生30万人時代を受け止める「関西型留学生就職支援基盤」の確立に着手するものである。</p> <p>初年度となる今年度は、大専各の過去の活動を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>I. 留学生就職支援ネットワーク構築事業</li> <li>II. 留学生就職支援基盤・基礎力調査</li> <li>III. 留学生基礎力育成講座</li> <li>IV. 留学生就職支援スキーム定義と教材</li> </ul> <p>を行った。これらを通じて、在阪の企業・専門学校・日本語学校・出身国・NPO等のネットワークの核を接続した。そして、様々な指導の根幹にある「やる気と日本企業への適合性」の根っこ「留学生基礎力」について、専門学校等が積み重ねている指導ノウハウ、企業の外国人人材やアルバイトに対する社内教育ノウハウを形にし、パイロット講座を開き、4パターンのカリキュラムを構築した。</p> <p>さらに、これらを踏まえて、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>V. 提言</li> </ul> <p>を行った。</p> <p>具体的には、次の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>I. 留学生就職支援ネットワーク構築事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>次の6事業からなる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>I-1. 「専門学校担当者のための留学生受け入れ研修会」</li> <li>I-2. 「留学生担当者支援ホームページ」開設</li> <li>I-3. 「関西型留学生採用交流会」開催</li> <li>I-4. 「関西型就職マッチングフェア」開催</li> <li>I-5. 「関西型職業教育理解促進セミナー」開催</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>			

## I-6. 「関西型就職フォローアップ体制」の準備

### II. 留学生就職支援基盤・留学生基礎力調査

次の6調査からなる。これらの調査から、留学生就職支援基盤へのフィードバックおよび留学生基礎力の定義やカリキュラムへのフィードバックを行う。なお、II-1・2・4については、留学生就職支援ネットワーク構築事業との連携調査である。

- II-1. 企業の留学生採用実態調査（対象：関西型留学生採用交流会参加企業）
- II-2. 企業の留学生採用実態調査（対象：関西型就職マッチングフェア参加企業）
- II-3. 日本語学校就職実態調査（対象：日本語教育振興協会阪奈和地区会員校）
- II-4. 専門学校留学生支援実態調査（対象：専門学校担当者のための留学生受け入れ研修会参加学校）
- II-5. 専門学校就職実態調査（対象：大専各会員校）
- II-6. 留学生基礎力実態調査（対象：大専各留学生委員会幹事校在籍生）

### III. 留学生基礎力育成講座

次の4校で行った。これらの講座を通じて、留学生基礎力の定義やカリキュラムへのフィードバックを行った。

- III-1. エール学園
- III-2. 大阪 YMCA 国際専門学校
- III-3. 清風情報工科学院
- III-4. 関西外語専門学校

### IV. 留学生就職支援スキーム定義と教材

IIおよびIIIを基に、留学生就職支援の枠組みを明らかにするとともに、初期教育用の教材を作成した。

- IV-1. 留学生就職支援スキームの定義
- IV-2. 留学生基礎力の定義
- IV-3. 留学生就職支援の役割分担
- IV-4. 留学生基礎力育成講座カリキュラム・教材

### V. 提言

専門学校業界内外にむけて、留学生就職支援基盤に必要な施策を提言した。

## 2. 事業の実施に関する項目

### 2-1 留学生就職支援ネットワーク構築事業

#### 1. 「専門学校担当者のための留学生受け入れ研修会」開催

専門学校各校の留学生担当者への留学生受け入れに関する研修会。入国管理行政の現状と今後の課題を学び、初級担当者には留学生受け入れに関する基礎知識講演、そして上級担当者には各校の具体的な事例を元にしたグループディスカッションワークを行うことによって、留学生管理・指導のノウハウの情報提供・事例交換・対策蓄積を行った。関西一円の専門学校に対象を拡大して、研修者を募り、広く兵庫県や和歌山県からの参加もあった。

参加校・団体数 第1部：62校/74名（第二部：初級研修47名、中・上級研修22名）

#### 2. 「留学生担当者支援ホームページ」開設

本ホームページは、各府県専修学校各種学校連合会会員校の留学生担当者が日常的に直面する生活指導・学業指導・就職指導をはじめとする実務上の諸問題の解決を支援するホームページである。経験者が相談員となる事により、留学生指導ノウハウの共有や事例の蓄積、さらには、担当者間の留学生指導体制に関わる情報ネットワークを構築し、各校における留学生の適切な選抜・受け入れ・在籍管理体制の充実を支援するもの。また、各教育機関での留学生受け入れに関して、進路指導担当者が

各種手続きの周知や留学の条件等の周知に苦勞している現状を受けて、多言語CMSを構築し、マニュアル化を実現させた。

### 3. 「関西型留学生採用交流会」開催

政府の留学生30万人計画に向けて、専門学校は知識技能を備えた優秀な留学生を育て、企業に送り出せるような教育を行なう必要がある。またそれと共に、日本のビジネス常識を含む日本文化・風習を留学生に理解させ、他方企業への留学生受け入れに対する理解の増進にも努力しなければならない。このような目的のために、本事業を企業と専門学校の相互理解の場とし、また両者が協力をして目的を達成するための礎とした。昨年まで2年間地道に続けてきた企業への説明会を通じ、繋がりがしっくり出来た企業や、留学生・外国人を採用する（もしくは採用を予定する）意識の高い企業に今回集まっただき、相互理解を深め今後の協力体制を築くことができた。

参加企業・団体数 参加企業・団体10団体12名

### 4. 「関西型就職マッチングフェア」開催

「関西型就職マッチングフェア」と銘打ち、これまでの企業からの要望を踏まえて、企業から「採用したい留学生に何を求めているのか」を伝えられるマッチングフェアを企画・開催し、企業説明会を一同に会して行うような場を提供した。

今回は、財団法人大阪労働協会が中心になって開催する合同企業説明会に、後援するかたちで参画し、専門学校の立場から留学生の就職活動について、求職者と企業両面をリサーチすることとした。ブース参加した企業を対象に、専門学校における留学生教育の特徴についてのセミナーを実施、また、参加されている企業とのパイプを作るべく、各企業ブースに出向いて専門学校の取り組みについてご理解いただけるよう説明することとした。

参加企業・団体数 30社

動員は、大専各会員校の留学生および関西一円の大学に告知

参加留学生は大学436名、専門学校84名

### 5. 「関西型就職教育理解促進セミナー」開催

関西一円の日本語学校の教員を対象に専門学校の留学生教育とりわけ就職のための資格取得・専門知識・専門技術の取得の取り組みを理解していただくことを目的としたセミナーを実施。また日本語教育振興協会（以下、日振協と記す）や入国管理局が日本語学校を対象として行う研修会などを専門学校内で行ってもらえるように呼びかけ、専門学校の認知を高める仕掛けを講じた。

参加校・団体数 発表者側5団体/日本語学校15校

#### ①日本語学校担当者への理解促進について

当初目的である専門学校での留学生教育の状況については、「大阪府専修学校専門課程留学生情報カード」を作成したが、留学生に特化した専門学校の状況をデータとしてまとめたものはこれまでになく画期的な情報冊子ができ、日本語学校と専門学校の連携した教育の実施に効果的なツールが完成した。

またセミナー当日での専門学校ならではの留学生の就職状況を日本語学校の担当者へ事例を含めて説明でき、高い満足度を得た。

#### ②専門学校の認知向上について

今回のセミナーの取り組みでは、日本語教育振興協会の阪奈和地区の組織的な協力体制で進めることができ、一方向のセミナーではなく第四部の交流会も含め双方向のセミナーとして実現でき、今後の留学生教育での研修を共同で行う機運醸成に役立った。

### 6. 「関西型就職フォローアップ体制」の準備

関西型就職フォローアップ体制を整えるためには、大学との連携強化、日本語学校との連携強化、入国管理局との連携強化が必要であると考え、連携のための話し合い会合を実施。日振協京奈和地区

との会合、私大協会との会合、また大阪府労働局との会合、入国管理局との会合（予定）を実施して留学生の着地点である就職しやすいためのインフラ整備に今年度は力を入れた。

また、こうしたネットワークの形成とともに、専門学校職業教育を理解していただくための「大阪府専修学校専門課程留学生情報カード」を作成した。

関西型就職フォローアップ体制を成功するためには、留学生を受け入れている関係機関と連携しながら進めることがパワーになると考えている。そのため次年度は関連団体との関係を強化しながら、互いのニーズを模索し留学生支援に効果の上がることから進めたい。

特に次の3点を強化すべきである。

- ①大学との連携強化
- ②入国管理局との連携強化
- ③大阪府の商工労働部との連携強化

## 2-2 留学生就職支援基盤・基礎力調査

### 1. 企業の留学生採用実態調査（対象：関西型留学生採用交流会参加企業）

参加企業の留学生採用に関する実態を把握し、「関西型留学生採用交流会」での論点をフォーカスさせるため、また今後の課題発見のために実施。

調査対象 「関西型留学生採用交流会」参加企業5団体（回答5団体）

#### ①留学生就職支援基盤へのフィードバック

専門学校と企業の連携体制構築のために、次のような施策が不可欠である。

ア. 大学在籍の留学生と専門学校在籍の留学生の違い、専門学校在籍の日本人学生と専門学校在籍の留学生の違いの明確な提示

イ. 「留学生基礎力」に関する企業側との共通認識の構築

ウ. 企業側のマニュアルに関する企業側との共通認識の構築

エ. 「就職ガイドライン」の原案提示と擦り合わせ

#### ②留学生基礎力・カリキュラムへのフィードバック

「留学生基礎力」構築のために、企業側からの指摘から次の点が必要である。

ア. 企業の望む人材の多様性実現のためのバイカルチャー留学生の育成

### 2. 企業の留学生採用実態調査（対象：関西型就職マッチングフェア参加企業）

就職先から見た、留学生専門学校卒者の採用の可能性について調査した。

調査対象 『外国人・留学生のための合同説明会』参加企業30社

#### ①留学生就職支援基盤へのフィードバック

ア. 大手から中小まで、概ね、留学生採用についての考え方に大差なく、具体的な役割がない限りは、国籍の特定もされていない。

イ. 留学生採用時、採用後の申請業務や、文化、習慣の違い等、雇用についての相談窓口となることを探すのに苦労している。

#### ②留学生基礎力・カリキュラムへのフィードバック

ア. 合同説明会と並行して実施されていたセミナーの中でも特に盛況であったのが「就職試験講座」で、面接の心得や、面接官のしている点などの説明について、皆、メモを取り、耳を傾けていた。そのことから面接指導やビジネスマナー教育の必要性を再確認できた。

イ. 留学生にとっては、異文化での就職活動についての不安が大きく、メンタルケアを必要としている。

### 3. 日本語学校就職実態調査（対象：日本語教育振興協会 阪奈和地区会員校）

日本語学校における就職指導のありよう、ニーズ、専門学校との連携に望むものという項目で調査。

調査対象 大阪、和歌山、奈良の日本語教育振興協会の会員校である日本語学校30校

#### ①留学生就職支援基盤へのフィードバック

日本語学校の在籍生の大半の進路は進学であるが、潜在的には日本就職を目指すものが多く存在す

る。すぐに就職する、または進学後就職するとの二つに分かれるが、日本語学校としては、最終着地点へむかっての情報が不足している。日本就職に向けた予備教育段階と専門教育を担う専門学校の連携を求めている。この連携には以下の項目が必要。

- ア. 留学生の日本就職に向けた地域全体の産官学のネットワーク。
- イ. 日本就職の情報の共有化。
- ウ. 予備教育と専門教育の一貫した人材形成のプログラムの促進

②留学生基礎力・カリキュラムへのフィードバック

留学生基礎力の重要性の訴求が必要であると再確認できた。

#### 4. 専門学校留学生支援実態調査（対象：専門学校担当者のための留学生受け入れ研修会参加学校）

本研修会の参加状況と有意性、及び次回への改善点、また留学生基礎力養成への取り組み状況の把握。

調査対象 「専門学校担当者のための留学生受け入れ研修会」 37校

①留学生就職支援基盤へのフィードバック

- ア. 研修会に参加している教職員の留学生指導レベルに大きな差異  
→留学生受け入れ未経験校、留学生受け入れ初級校に対する支援の必要性
- イ. 各教育機関が保有している留学生指導ノウハウの統合化が望ましい  
→留学生受け入れ優良校の増加に伴うノウハウのデータベース化
- ウ. 留学生指導マニュアルを作成していない教育機関の存在  
→留学生受け入れ独自マニュアルの構築に向けた取り組みの必要性
- エ. 各専門教育分野における指導ニーズの把握の必要性  
→各教育機関の指導分野によって留学生指導方法が異なるため情報共有化

②留学生基礎力・カリキュラムへのフィードバック

- ア. 留学生担当職員の留学生指導レベルに対応するための日本語学校での教育  
→専門教育・技術を学ぶ前提としての留学生基礎力教育の必要性
- イ. 日本国内就職に向けた専門教育+「友達力、アルバイト力」教育が求められる  
→専門教育課程卒業後の日本国内就職にむけた留学生総合教育実施の必要性

#### 5. 専門学校就職実態調査（対象：大専各会員校）

大阪府の専門学校に学ぶ外国人留学生の日本での就職状況を調査し、今後の就職指導方法や企業との連携強化方法の構築を目指し、外国人留学生の日本国内就職実績の向上に結びつける。

調査対象 大専各会員校の中からアンケートを回答いただいた63校

①留学生就職支援基盤へのフィードバック

留学生支援ネットワーク構築のためには、次のような点が不可欠である。

- ア. 採用企業との連携強化による留学生求人増加、就職後のフォローアップ体制の確立
- イ. 専門学校間の情報・ノウハウの共有化による指導体制の全体的レベルアップ
- ウ. 就労ビザ許可分野の拡大に向けての入国管理局との折衝

②留学生基礎力・カリキュラムへのフィードバック

「留学生基礎力」構築のためには、次のような指導が求められる。

- ア. コミュニケーション能力（対人関係力）の向上
- イ. ビジネス常識への理解
- ウ. 日本文化・習慣への理解

#### 6. 留学生基礎力実態調査（対象：大専各留学生委員会幹事校在籍生）

近年、「社会人基礎力」というものが言われているが、これを留学生・外国人が発揮するには、その前提となる能力が必要である。例えば、日本語力や基礎学力などである。しかし、それだけではなく、文化的な違いにより「常識」が異なっているため「社会人基礎力」を示すだけでは実践は不可能である。社会人基礎力の前段階の能力を「留学生基礎力」と呼ぶことにし、これを「見える化」し、

向学心のある留学生・外国人がマスターできるようにするため、その基礎調査を行った。

「留学生基礎力」には、これまで日本語教育で比較的小さくされてきた「友達力（日本人と友達になれる力）」「アルバイト力（アルバイト先で喜ばれる力）」の二つの側面があると考えている。「アルバイト力」については、日本人のものから類推が容易だが、「友達力」については、人間関係そのものであるだけに、各民族による文化的な差異が大きいものと推測される。そこで、幹事校に在籍する留学生・日本人学生を対象に、「友達にしたい人」を出身国での場合と相手が外国人（日本人）の場合で調べ、そこから共通点や差異を浮き彫りにすることにした。これを基にして、留学生がマスターすべき「留学生基礎力」の基礎情報を提供することを目的として行った。

①留学生就職支援基盤へのフィードバック

特になし

②留学生基礎力・カリキュラムへのフィードバック

調査を通じて、2つのことが浮き上がってきた。ひとつは、普遍的な友達の要件である。これは、文化に関わらず共通のことである。このことは、特に改めて教育や自覚の対象とする必要がないことである。逆に言えば、文化の違い以前にこのレベルで問題があれば、日本人に対するのと同様に、何らかの形で自覚を促すなり、それをカバーする方法を見出すよう誘導すればよい。「留学生基礎力」としては、前提条件とし、取り立てて定義する必要を要しないことであると考えられる。

もうひとつは、文化によって異なる友達の要件である。言うまでもなく、日本社会においても、中国・韓国で友達の要件として表立って見えている。例えば、利害・役に立つ、金離れがいいというようなものも、友達の要件として意識されていることは事実である。しかし、調査を通じて、そのような即物的な利害ではない次元のものごとを日本人は大切にしているように感じられる。今回は調査しなかったが、むしろ、利害でつながっているのはビジネス上の友人でしかなく、本当の友人ではないし、本当の友人には利害を頼らないという不文律があるようにも感じられる。このような文化の差異は、留学生が従うか従わないかは本人の自由に属するが、教育としては、差異が存在しているということを伝えるべきであろう。また逆に差異を乗り越えることによって日本人と留学生の間の友人関係を広くまた密にすることができるものと考えられる。「留学生基礎力」としては、よりの確に定義すべきことと考えられる。

さらに、コミュニケーションギャップとして浮き上がったもの（下表）は、

ア. 日本人と留学生の認識のずれの多そうなところ

日本人からみた留学生の印象→	←留学生からみた日本人の印象
(私は正直なのに、相手は) うそをつく	裏表がある (言葉と考えている事が違う)
(私は言わないのに、相手は) 文句を言う	陰口を言う (表では言わないが裏で悪口)
考え方・好き嫌いがはっきりしている	好き嫌い・考えを言わない
	(何を考えているのかわからない)
(私は言わないのに、相手は)	正直では駄目で何かタブーがあるように見える。
(正直に本音を言ったつもりなのに)	
自分だけが正しい	融通がきかない
(私は相手を受容するのに、相手は)	(人同士のルールだから変えればいい)

日本社会の成立に不可欠な行動・思考パターンとなっている。そのため、なぜこのような表現になるのか、どのように表現し、解釈すべきであるかということ、教育する必要があるといえる。日本語の特徴は、人間関係によって表現を変化させることであるといわれている。それゆえ上記の行動・思考パターンは、おそらく日本語の表現とも直結しているため、日本語教育の段階から体系的に教育すべき事柄であると考えられる。

## 2-3 留学生基礎力育成講座

留学生基礎力育成講座のパイロット版として幹事校4校で独自の講座を実施。主たる対象は、平成21年10月生。

これらの講座を通じて、留学生基礎力の定義やカリキュラムへのフィードバックを実施する。

### ①エール学園

- (1) 開設講座数／1講座
- (2) 授業時間数／15時間
- (3) 講座内容／留学生のキャリアデザイン
- (4) 応募者数／66名
- (5) 受講者数／66名（初級段階5クラス）
- (6) 修了者数／66名
- (7) 受講者満足度（5段階評価）／平均点4.0点
- (8) 留学生基礎力講座からのフィードバック

①留学生が来日から日本就職までの道のりは長い。また彼らが吸収すべき内容も多岐にわたる。しかし個別の吸収すべき項目を網羅的に進めるだけでは不十分で、全体としての人材形成の方向性が必要。

②日本就職を目指すにあたっては、日本社会への適応を「友達力」としてとらえ、日本企業への適応を「アルバイト力」でとらえることは方向性として適格で完結していて、留学生にとってなじみやすい。

③今回は、その基礎力を育成するにあたって、当方が講座として実施できたのは動機付けに焦点を当てて、自己発見から目標を失わず継続する道筋を示し、日本社会との協調のための社会貢献までをプログラムとして実施した。アルバイトについての説明会と動機付けは実際の学校活動としては実施したが、今回のプログラムでは時間の関係で研究事業としては取り組めなかった。

④動機付けでは、日本就職の事例まで幅を広げた具体例を示していればさらによかった。アルバイトについては、時間管理が必要で、これに取り組めたのは良かった。今後の課題として留学生基礎力を再度定義すると以下になる。

ア. 日本留学の目標を自己発見から動機付けし継続的な努力をする力を育成する。

イ. アルバイトと勉学の両立のためには時間の管理の能力を育成する必要がある。

ウ. 親元を離れて自活する彼らに健康管理の能力は不可欠。

エ. 自己中心的な人格形成ではなく、他者と協力すること、支援することを、地域貢献として育成することが必要。

なお、本校では実施できなかったが以下の学習が求められる。

オ. 日本文化についての全体的な理解。

カ. 日本人の考え方と自分の考え方の相違点やすり合わせを行う。

キ. また彼らが青年段階であることも考慮し、社会規範を順守すること（約束を守る、規則を守る、時間を守る、エチケットも身につける）が必要。

ク. 最後は相手を思いやる人間力の形成が決め手となる。

### ②大阪YMCA国際専門学校

- (1) 開設講座数／1講座
- (2) 授業時間数／12時間で設定（＝1週1コマ（50分×1）×12週）
- (3) 講座内容／日本語特別演習（日本のものの考え方、生活習慣等を学び、中国人および中国文化との比較の中で、日本をよりよく理解する。）
- (4) 応募者数／4名
- (5) 受講者数／4名（平成21年10月入学者） 国籍（中華人民共和国4名）
- (6) 修了者数／4名
- (7) 受講者満足度（5段階評価）／平均点4.5点
- (8) 留学生基礎力講座からのフィードバック

#### ①新たな取り組みについて

従来外国人教員が、自らの体験を含めて日本で暮らすために何が必要かということの主眼として構成していた講座内容を、日本人教員が一步踏み込んだ形で日本人の心情に触れ、それが日本人との付き合い、現在のアルバイトや将来の就労時に役立つものとのセットとして提供することを意図したが、留学生にとっても、両者からの解説は納得性の高いものであった。

#### ②反省点

時間割の構成上制約があり、前半の日本人の心情編を日本人教員が担当し、後半の日本社会の実

用編を中国人教員が担当したが、一つの題材を外国人教員が留学生が共感し易い内容で解説し、続けて日本人教員が日本人の立場から更に深く解説するという、連続性のある講座展開ができれば、より理解と納得性が深まるであろう。

### ③留学生基礎力について

今回のテーマである「留学生基礎力」は、あくまでも将来の日本の社会における就労を前提にしたものであるとすれば、以下の展開においてその定義が可能となるとしたい。

ア. 日本語能力の再構築：出身国において、教室で習って来た日本語能力はいかに高いものであっても、不十分である。実際の日本人が運用する日本語を学び直す必要がある。また、漢字圏の学生はなまじ漢字の意味が理解できるために起こる誤解にも注意すべきである。

イ. 日本人への関心と理解：来日当初は、身の回りで目に映る事柄に関心を抱き、また不思議さや、場合によっては不信感さえも感じる。これらに対する適切な解説がないと、基礎力としての理解力は身に付かない。日本人にとっての「当たり前」を理解する必要がある。

ウ. 日本社会への関心と理解：個人から社会への拡がりの糸口は、日本人の友達であり日本社会でのアルバイトである。同時進行にはなるが、①日本語能力の再構築が進み、②日本人への関心と理解が高まれば、実践的な日本人の友達との付き合いや、日本社会でのアルバイトはスムーズに進み、またそれらを通しての経験が、必ず将来の就労に役立つ。

エ. 出身国や世界との比較における関心と理解：留学生は来日して、異文化の衝突に直面する。留学生と日本人の比較、出身国と日本の比較だけではそれは解決できない。異文化の衝突は国や文化の違いだけでなく（もちろんそのことによって醸成される要素は大きいにしても）、価値観の違いによるものが大きいこと。そして、その解決の背景には一方的な同化ではなく、互いの価値観の確認と容認を必要とすることを知る必要がある。

留学生基礎力を上記のように定義するならば、それに沿ったカリキュラム構成を、再度試みてみたい。また、上級編としては、現実に留学生が日本の社会でぶつかる諸問題に答える形の講座を、この基礎力を身に付けた学生達に対して展開する必要性を感じる。なぜならば、彼等は来日してさえ生身の日本人と接することが少なく、日本人からそれらの問題に対する解答を得る機会も少ないからである。

### ③清風情報工科学院

- (1) 開設講座数／2講座
- (2) 授業時間数／8時間で設定（＝1週1コマ（30分～1時間）1日2講座×8週）
- (3) 講座内容／留学生が日本ででの生活に早く慣れるように、日本生活文化・習慣を身につけることができる講座。
- (4) 応募者数／29名
- (5) 受講者数／29名（平成21年4月37名に対しても実施）
- (6) 修了者数／29名
- (7) 受講者満足度（5段階評価）／平均点4.0点
- (8) 留学生基礎力講座からのフィードバック

#### ①講座の実施方法について

ア. 本校では、前期と後期の2度実施した。

イ. 前期は、留学生基礎力をそのまま順番に実施したのだが、学生からの反発が生じた。「日本ではそうかもしれないけれど、中国では違うため、従わなくてもいいではないか」との反発と考えられる。

ウ. 後期は、以下の通り、実施方法の変更を試みた。

a. 通訳：前期は留学生の中で日本語の優秀なものにさせた  
今回は中国人スタッフ

b. 講師：第1回は先輩学生（卒業生）に話させた  
第2回以降は、日本語講師で分担して実施

c. 内容：反発を生じにくそうな部分を選んで実施。内容・回数を限定。  
先輩の話・食事・身だしなみ・交通安全・金銭トラブル・大阪案内  
財務計画・目的の再確認

d. 準備：来日直後だが、出身国で日本語能力が高い・日系企業で努めていたなどのグルー

プと、来日直後で日本語能力が低いグループを分けた。午前に前者に授業をし、どのように表現すれば伝わりやすいかを確認し、それを踏まえて午後以後に後者に授業した。

エ．来日直後は、出身国での教育の影響で、憧れと反発が混在していると考えられる。憧れの部分をベースに教育し、その後日本社会になじんだところでより深い文化・人間性に進むのがよいのかもしれない。憧れの部分は、日本社会の礼儀・生産性であり、また自らの留学生活に直結する（自分が得すると、出身国文化の延長線上で想像できるもの）が教育の土台になるのではないかと考えられる。

#### ②留学生基礎力について

ア．留学生基礎力は、多層になっていると考えられる。それを分ける視点はずぎの3点ではないか。

- a．日本社会からみて必須の度合い
- b．出身国文化からみて受容可能な度合い
- c．日本社会に心を開いているかどうかの度合い

イ．来日当初は、日本社会からみて必須の度合いが高く、出身国文化からみて受容可能な度合いの高いものを選択すべきである。日本社会の礼儀・生産性は、それぞれ「友達力」と「アルバイト力」の基礎となるものである。

ウ．日本社会に心を開いていない時点では、

- a．日本社会が求めている人間性の方向性を示す
- b．出身国人の先輩の口をかりて、教育する
- c．遠足での社寺の訪問
- d．学内ルール・行事としての実施

ができる限度であると考えられる。人間性教育そのものは、最速でもアルバイト開始後が妥当である。

#### ④関西外語専門学校

- (1) 開設講座数／1講座
- (2) 授業時間数／18時間で設定(=1週2コマ(50分×2)×9週)
- (3) 講座内容／日本事情(日本人の生活習慣、ひいては日本人の世界観を学び、日本への理解を助ける)。
- (4) 応募者数／受講希望者16名
- (5) 受講者数／16名 性別：男性5名、女性11名、国籍・地域(インドネシア1名、大韓民国3名、台湾9名、中華人民共和国3名)
- (6) 修了者数／16名
- (7) 受講者満足度(5段階評価)／平均点4.1点
- (8) 留学生基礎力講座からのフィードバック

オリエンテーションでは、スムーズに留学生生活のスタートが切れるように、日本、また本校における必要最小限の知識、諸注意と行うべき諸手続きについての説明を行っている。

また、本校には、万が一何かトラブルが発生しても気軽に(母国語で)相談できるサポート体制があることを同時に認識させている。

これらにより、トラブルの発生を極力防ぐとともに、もし、発生しても最小限の被害で食い止められるよう指導している。

- ①留学生生活の諸注意
- ②必要諸手続きの説明
- ③相談先の紹介

「日本事情」では、日本の歴史、地理・風土、気候等の基本的な知識や、冠婚葬祭、年間行事などを学ぶとともに、その背景となる日本人の考え方、判断のベースともなる独特の精神文化や他国に見られない特徴、美的感覚、傾向性、更には、それらを培養した地下水脈にも目を向けるよう導くことにより、留学生たちが今後日本人・日本社会に接するなかで必要となる日本人の考え方についての認識を深める。

特に、「日本の行事や習慣を今まで中国の常識に基づいて考えてきたが、今日は日本の立場から

考える大切さを学んだ」、「日本人は相手が傷つかないように、大変気を遣って言葉を考える。自国では、なんでも遠慮なくはっきり言う」、「相手の気持ちを大事にする特有の文化だとわかった」等の感想からも読み取れるように、出身国とは違った日本の常識があること、また、その日本の常識を認めることは、留学生が今後日本の社会において生きていくための基本的な力と成り得ると考える。

今回のパイロット講座で行ったように ①基礎知識を学習、②疑問点等を議論、③日本について考察、という講義形式は留学生に対し必要な基礎力を育成するには有効な形式のひとつである。

## 2-4 留学生就職支援スキーム定義と教材

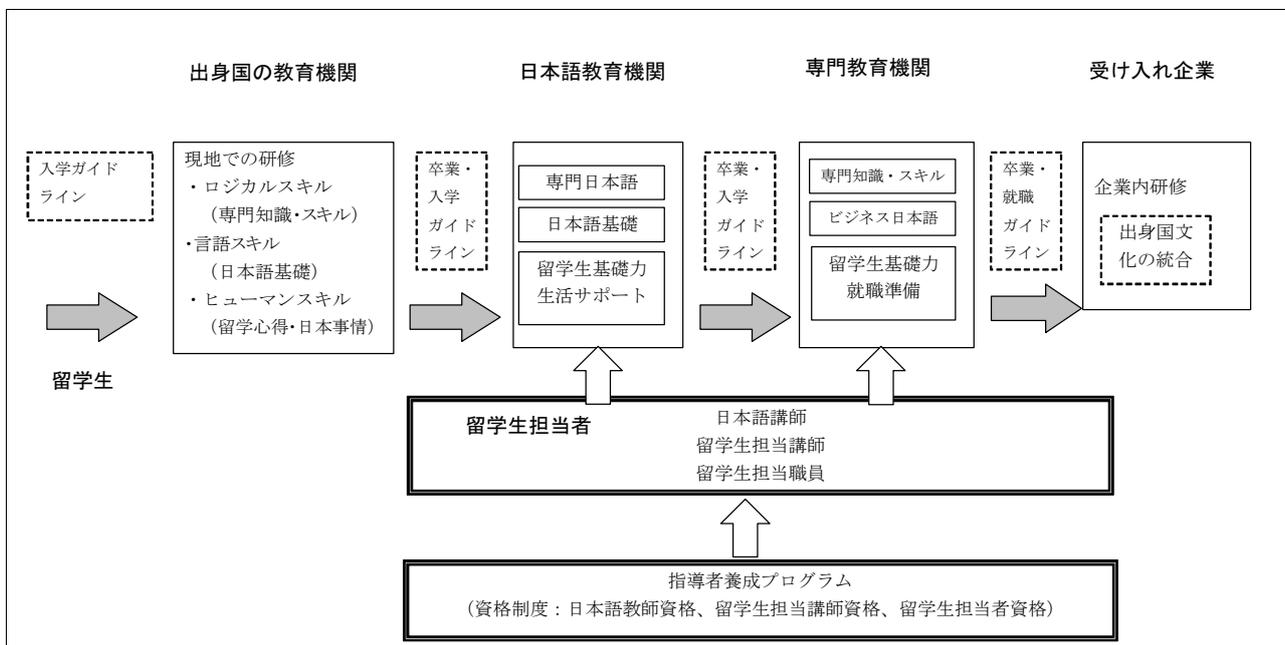
留学生の就職を支援するには、日本語力・専門能力・留学生基礎力などを並行して指導していくことになる。また、その教育を担当する組織も、ひとつだけとは限らず、入国前から就職後まで複数の組織にまたがる。教育の順序、関わる組織の役割分担を考えるには、なんらかの共通の枠組みが必要である。ここでは、その枠組みを「留学生就職支援スキーム（以下、スキーム）」と名づけ定義した。

次に、I-1からI-5の事業および日常の教育活動を通じ、生活・学校・企業に共通の基盤「留学生基礎力」の根幹は「友達力とアルバイト力」であることを見出した。そして実態調査および来日すぐの留学生を対象として実施した「留学生基礎力」育成講座の内容から「留学生基礎力」の定義を試みた。「留学生基礎力」は、従来「暗黙知」であって、断片的には言語化されているものの、全体像はよく分からなかったものを言語化したものである。

留学生就職支援スキームは第1フェイズ（出身国）と第2フェイズ（日本語）、第3フェイズ（専門）、第4フェイズ（企業）に分けることができる。それぞれのフェイズにおいて主となる機関がある。その機関の役割分担、すなわち教育プログラムの概略と付随して行うサポート内容、他の機関との関係などを定義した。

これらを踏まえて、第2フェイズにおける来日すぐの留学生を対象とした留学生基礎力のオリエンテーションと初級の講座の内容について、カリキュラムと教材を4種類作成した。

### 1. 留学生就職支援スキーム



### 2. 留学生基礎力

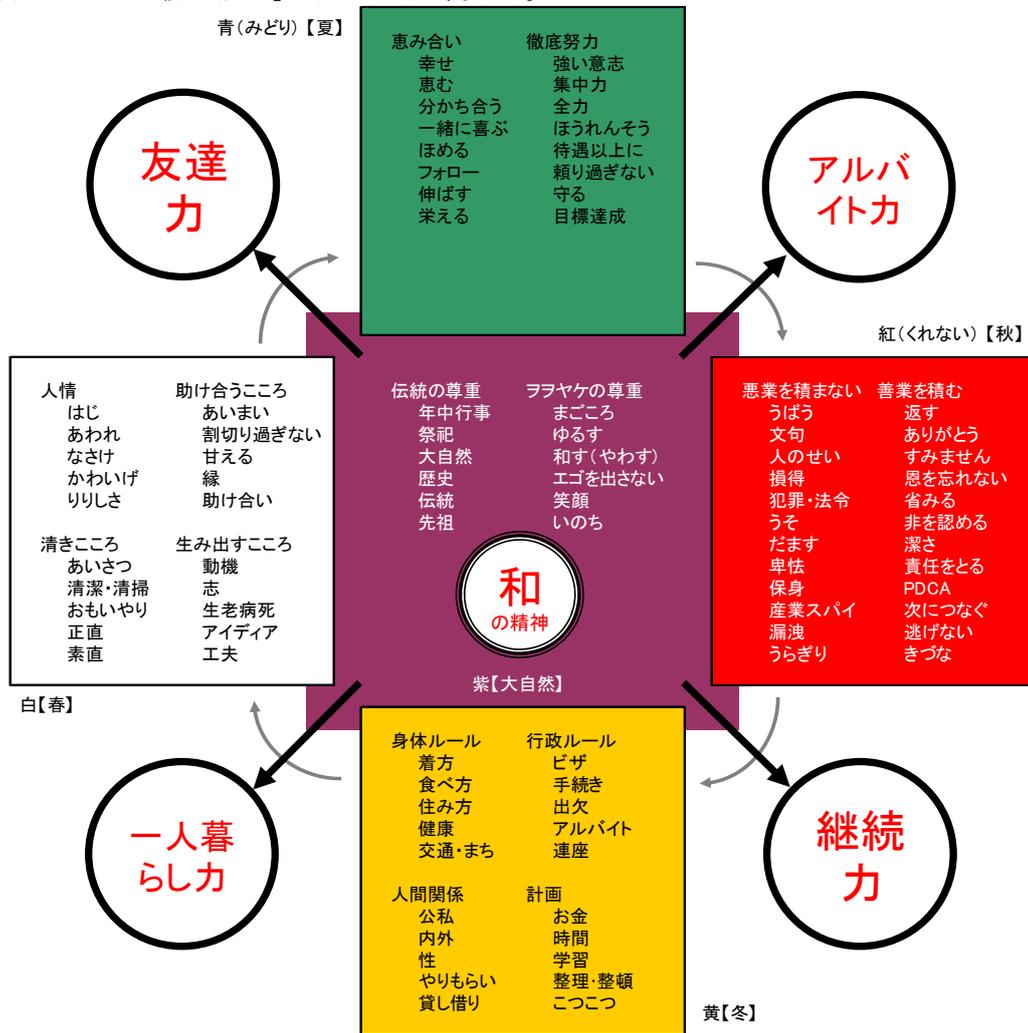
留学生が、出身国の文化を保ったまま円滑に日本社会に統合されるには、言葉や専門技能だけでなく、常識もまた身につけねばならない。ここでは、出身国の文化に加えて日本の文化をも身につけ、複数の文化を操る人材のことを「バイ・カルチャー (複数文化・二文化)」「バイ・コモンセンス (複数常識・二常識)」人材と呼ぶことにする。

バイ・カルチャー、バイ・コモンセンス人材は、良き隣人であって、同時に、企業が期待する「ダイバーシティ（多様性）」を満たす人材であり、国際業務を行う「ブリッジ」人材の必要条件を満たす人材である。

バイ・カルチャー、バイ・コモンセンスというコンセプトは、母国語や出身国文化を消して日本語や日本文化のみにする「同化」とは根本的に異なるコンセプトである。また、外国語や外国文化を日本社会が一方的に受容し日本文化を強制的に変容させてゆくものでもない。教育によって初めて可能になる「共存共栄」のコンセプトである。

バイ・カルチャー、バイ・コモンセンス人材が身につけるべき、日本の文化・常識をここでは「留学生基礎力」と呼ぶ。

留学生基礎力は、日本語教育そのものではなく、また、専門教育そのものでもなくて、教育機関において通常日本人になされる教育以外で育成しなければ、さまざまな問題を生じる力である。日本人なら長年の生活・教育で自然に身につけている、あるいは、その後の社内教育などで身につけられる、あるいは、日本人が忘れていていると思われる力である。留学生はある期間で出身国に帰ることが前提となっているが、日本社会との付き合いは条件さえ整えば、一生つづくともいえるので、関係が永続できるような、言い換えれば「持続可能な」力として定義した。



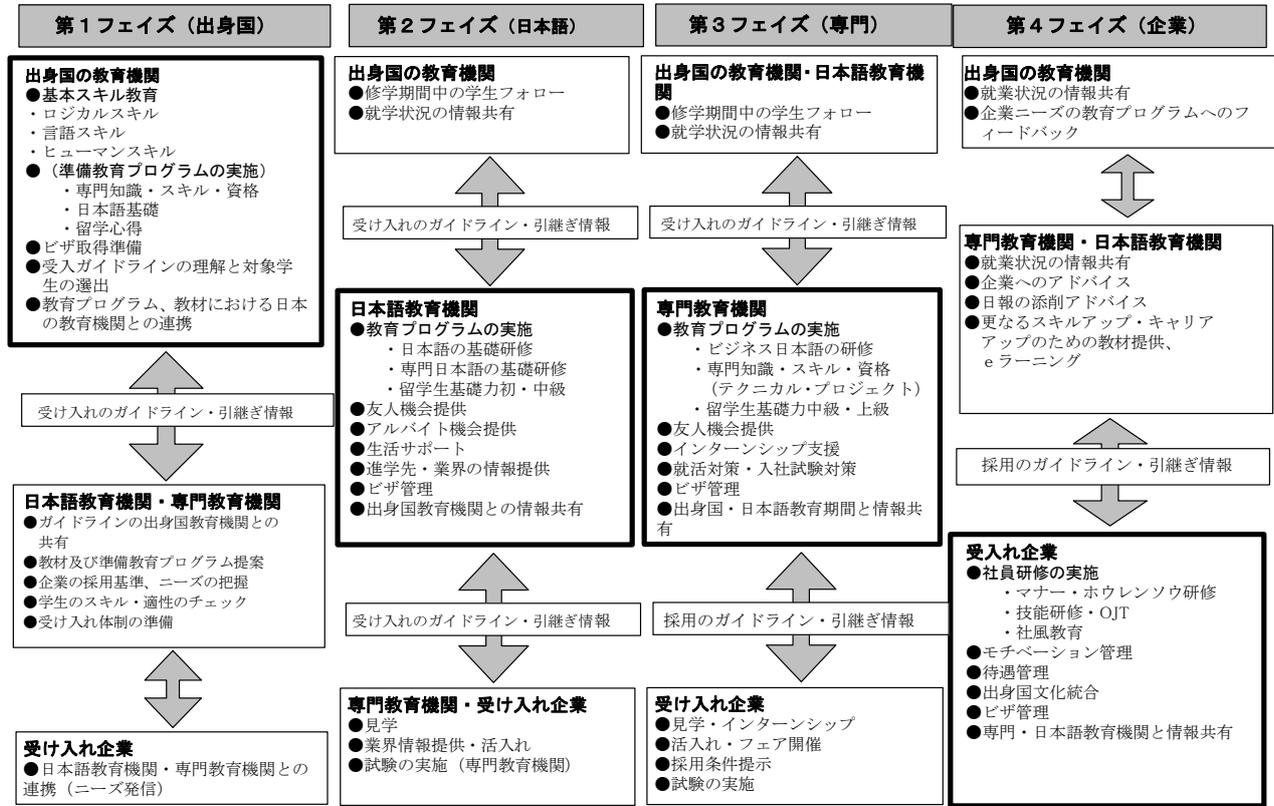
留学生基礎力には、育成順序がある。来日直後は、出身国での教育の影響で、憧れと反発が混在していると考えられる。憧れの部分をベースに教育し、その後日本社会になじんだところでより深い文化・人間性に進むのがよい。憧れの部分は、日本社会の礼儀・生産性である。また自らの留学生活に直結する（自分が得をすると、出身国文化の延長線上で想像できるもの）が教育の土台になるのではないか。

そこで、つぎの3点：

- ①日本社会からみて必須の度合い
- ②出身国文化からみて受容可能な度合い
- ③日本社会に心を開いているかどうかの度合い

を元に、育成順序を配列した。

### 3. 留学生就職支援の役割分担



### 4. 留学生就職支援のカリキュラムと教材

留学生就職支援スキームの役割分担に基づき、第2フェーズ（日本語教育機関）における来日すぐの留学生を対象とした留学生基礎力のオリエンテーションと初級の講座の内容について、カリキュラムと教材を4種類作成した。

いずれも、幹事校で実施したものをベースに他校でも実施可能なように授業のガイドラインを付属させたものである。4校それぞれで、実施内容や力点の置き方は異なる。日本語教育機関・専門教育機関はいずれも多様であり、4種類のカリキュラムと教材から、各校で適宜選択・組み合わせる実施できるほうがより利便性が高いと考え、4種類提示することにした。

初級の講座のシラバスは以下の通り

#### ①エール学園

	実施シラバス	講義の狙い
1	入学オリエンテーション	入学者全体へのオリエンテーション。学習と生活の全般について理解する
2	動機付け研修オリエンテーション	キャリアデザインの授業の目的と留学全体の動機付けを行う。
3	留学目的確認	前回の研修を受けて、自分の留学目的を再確認し宣言する。
4	自分の強み発見	自己発見のワークショップを通して自己と他者の強みを発見する。
5	時間の使い方を振り返る	自分の目標や夢実現のために時間をどう使うか考える。

6	身体と仲良くなる	「アユールベータ」の視点から自分の心と身体の特徴を知る。
7	社会貢献について考える	自分の夢実現と社会貢献の関係について学ぶ

### ②大阪YMCA国際専門学校

	内 容	担 当
1	なぜこの授業なのか（日本語・日本人・日本国及びあなたの国では） 自己紹介/授業への希望	中国人教員
2	日本人論①	日本人教員
3	日本人論②	日本人教員
4	日本人論③	日本人教員
5	日本人論④ まとめ	日本人教員
6	日本人の文化	日本人教員
7	留学生が学ぶ、使える日本語	中国人教員
8	日本の祭り、年中行事および文化	中国人教員
9	地図から学ぶ日本地理	中国人教員
10	日本滞在ビザから考えるあなたの日本生活	中国人教員
11	日本語活用術 プレゼンテーション	中国人教員
12	テスト/授業を参考にレポートを書く（テーマ自由選択）	中国人教員

### ③清風情報工科学院

	テーマ	内容・ポイントなど
1	先輩の経験談を聞こう	清風での毎日、アルバイト、進路の決め方
2	食事のしかたを考えてみよう	はしの使い方、食事前後の挨拶の言葉など。食べながら歩かない
3	身だしなみに気をつけよう	服装、爪、ハンカチ
4	交通安全	外国で生活するということ。留学生の交通事故はほとんど自転車
5	トラブルに巻き込まれないために	金銭の貸し借り、身分証明書、定期などの扱い方
6	大阪案内	日本に来て約1ヶ月、手軽に行ける、楽しめるスポットを紹介
7	財務計画を立てる	バイトを始める頃。バイト収入仕送りなど、卒業までの計画立案

### ④関西外語専門学校

	内 容
1	・日本列島における「一斉急変化」の要因 ・日本の代表文化トップ10 ・日本を知るための120項目 ・なぜこの科目を選んだか、授業への希望
2	・伝統芸能／日本歴史に見る一斉急変化劇 ・日本人と変化 ・過去4度の急変化・伝統文化の急変化傾向 ・要因とバックグラウンド ・グループディスカッション・発表
3	・野球文化から日本人が見えるー「イチローと武蔵」 ・外国人野球選手 ・外国人力士と ・なぜ日本人には熱狂的野球ファンが多いか
4	・桜と日本人（桜文化から見える民族性） ・なぜ日本人は毎年桜に熱狂するのか ・ディスカッション・発表

5	・日本文化における「硬」と「軟」（儀式文化・曖昧文化） 「礼儀文化」「曖昧文化」 ・ディスカッション「曖昧表現についてどう思うか」	・日本の
6	・横文字志向と日本女性の「ルイ・ヴィトン」人気 「ルイ・ヴィトン」が売れるのか ・グループディスカッション・作文	・なぜ日本で「ルイ・ヴィトン」
7	・「癒し文化」は海外に知られざる精神財産 ・温泉・富士山・旅の文化	・激しさの陰の「癒し文化」
8	・言われて気づく「ふくろ文化」…「包む心」の文化 ・着物・日本語の共通点～ ・なぜ日本人は包むことに心を込めるか	・包む心～袋・
9	・異文化吸収・洗練の伝統 凝り性、学習好き ・実態と淵源 ・復習テスト	・サービス文化 その

## 2-5. 提言

今回、大専各の総力を挙げて、来る留学生30万人時代を受け止める「関西型・留学生就職支援基盤」の確立にむけて、取り組ませていただいた。就職準備教育を専門とし、留学生への教育にも携わってきた専門学校としては、政府や経済界・学界が唱える留学生30万人計画や移民国家日本などの構想は、ビジネスとしては歓迎すべきことといえる。しかし、留学生を多数教育し、学生募集などを通じ海外と直接交流・交渉している我々には、懸念もまた浮かび上がるのである。

和の精神とおもいやりを大切に「日本」であるだけに、弱肉強食の競争原理と虚実入り混じる「世界」との間には、なんらかの防波堤が必要である。防波堤を消滅させれば、この国の内部が弱肉強食の競争原理と虚実入り混じる世界となることは自明である。遠くない将来、この国は外国人受入れに大きく舵を取る可能性がある。そうであればこそ、教育という防波堤によって、日本人と外国人が共存共栄しうる仕組みを担保することが、現代の我々の責任であろう。

また、関西は日本の歴史伝統の中心地であり、有史以来色濃く様々な伝統が築かれている。同時に、様々な地域からの人を受け入れ、融合してきた。その結果として、関西は日本らしい地域であると同時に、外国人からも分りやすい地域になっている。関西人はある時は実利をずばっと求め、しかし同時に人情と慣習を重んじている。このような関西であるだけに、我々は、歴史の浅い東京にはなしえない実質的な「留学生就職支援基盤」を構築しうるものと考えている。空理空論に走らず、かといって、本音だけでもないそのような体系を、ここでは「関西型」と呼ぶことにしたい。

就職準備教育を専門とし、留学生への教育にも携わってきた専門学校こそが、また実質を重んじる関西こそが、その知恵を提供しうるし、せねばならないとの志にもとづき、各界に向けて提言を行った。

- ① 関西型「ワンストップサービス」の確立を
  - － 留学生から見て（就職先と就職までの道筋が見える）
  - － 企業から見て（本人と採用までの道筋が見える）
  - － 学校から見て（各機関の役割分担と引継ぎ事項が見える）
- ② 関西型「留学生就職ガイドライン」の策定を
- ③ 関西型「留学生基礎力」の確立を
- ④ 大学と連携した関西型「留学生教育連携」の制度化を
- ⑤ 「日本になじむなら関西から」  
官民あげて・関西あげて国際的な「関西PR」を

## 3. 事業の評価に関する項目

### ①当初目的の達成状況

#### 1. 「専門学校担当者のための留学生受け入れ研修会」

- ・入管からみた留学生受け入れ・在籍管理・就労における注意点を周知できた。
- ・留学生受け入れに関する基礎知識や現状について、専門学校事務担当者間で情報の共有を図ることができた。
- ・留学生の就職準備教育の確立を目指し、各専門学校におけるノウハウの共有を図ることができた。

2. 「留学生担当者支援ホームページ」作成
  - ・専門学校留学生担当者が日常直面する諸問題を解決できる相談ホームページを立ち上げることができた。
3. 「関西型留学生採用交流会」開催
  - ・専門学校における留学生への就職指導の取り組みを、就職先である企業に認知していただくことができた。また、企業との連携体制作りを行うことができた。
4. 「関西型就職マッチングフェア」開催
  - ・ジョブカフェ OSAKA との共催により、留学生を対象とした合同企業説明会を行い、留学生の就職活動の場を提供することができた。
5. 「関西型職業教育理解促進セミナー」開催
  - ・日本語学校の教員を対象に、留学生の進路の選択肢として専門学校を検討いただけるよう、就職のための様々な知識や技術の修得に向けた取り組みを理解いただいた。「留学生情報カード」を作成・配布した。
6. 「関西型就職フォローアップ体制」の準備
  - ・大学との教育連携強化、国際・労政・入管部局との連携強化、経済界との連携強化が図れた。
7. 「関西型留学生基礎力育成カリキュラム」作成
8. 「関西型留学生基礎力養成講座」実施
  - ・留学生が日本で就職するために必要な「留学生基礎力」を定義し、幹事校4校にてパイロット講座を実施し、カリキュラムと教材を作成できた。

## ②事業の成果及び改善点

入学前から就職後を通じた留学生の就職支援体制「関西型留学生就職支援基盤」の確立に向けて、

1. 官とのネットワークづくり
2. 大学・日本語学校とのネットワークづくり
3. 企業・経済界とのネットワークづくり
4. 専門学校同士のネットワークづくり

が出来、それに対応した事業や交流の場をもつことが出来た。とりわけ、大学との関係、入国管理局や大阪府の商工労働部との関係が新たに構築できた。また、就職支援教育の第1弾として、「留学生基礎力」を定義し、それに即した「留学生基礎力養成」講座を開講し、カリキュラム化することに成功した。

これらを通じて、留学生・企業・学校からみて、入学から就職までの「ワンストップサービス」実現の方向性を見出すことができ、来る留学生30万人時代を受け止めうる「関西型留学生就職支援基盤」の基礎を構築することができた。

## ③次年度以降における課題・展開

次年度は、今年度の状況を踏まえて、各事業の実施方法を改善すると共に、「関西型留学生基礎力育成カリキュラム」については、「留学生基礎力」本講座用教材を評価し、これを基礎として、より就職に直結したレベルのマニュアルを整備し、関西型「ワンストップサービス」の基盤を整備する。

- (1) 「留学生受け入れ－専門学校危機管理マニュアル」作成
  - ①留学生の在籍の危機管理
  - ②留学生の生活指導の危機管理
  - ③留学生の教育指導の危機管理
  - ④留学生の海外募集の危機管理

- (2) 「留学生受け入れ－企業人事担当者マニュアル」作成
  - ①留学生採用のための関西型「留学生採用ガイドライン」の策定
  - ②留学生版ジョブカードの策定
- (3) 「留学生受け入れ－ビジネス準備教育マニュアル」作成
  - ①日本語教育の改善点
  - ②日本語教師養成の改善点
  - ③ビジネス準備教育のカリキュラム
  - ④機関連携のためのフレームワーク
  - ⑤関西型「留学生教育連携」の制度設計

次々年度は、「関西型留学生就職支援基盤」の総仕上げとして、ネットワークを完成させると共に、専門学校・日本語学校・大学・企業を対象として、教員・実務担当者・指導者を養成すべく

- (1) 「留学生受け入れ－キャリア教育スタンダード」作成
- (2) 「日本企業に受け入れられるためのキャリア教育スタンダード研修会」  
を開くと共に、留学生に向けた
- (3) 「留学生基礎力検定」  
を提案する。

#### ④成果の普及

##### 1. 事業の周知と成果

今年度は、次の機会に講演の機会を得て、事業の周知および成果の報告を行った。

- (1) 大阪府専門学校各種学校連合 留学生担当者研修会 講演
- (2) 専門学校各種学校連合会近畿地区大会 報告
- (3) 日本語教育振興協会 阪奈和地区研修会 報告
- (4) 日本語教育振興協会 留学生活指導委員会 報告
- (5) 専修学校教育振興会 留学生担当者 研修会講演
- (6) ジョブカフェにおける留学生採用企業への講演
- (7) 東京都専修学校各種学校協会と合同で成果報告会

##### 2. 報告書配布先

- (1) 大阪府専門学校各種学校連合会 会員校
- (2) 近畿地区専門学校で留学生を受け入れている学校
- (3) 近畿地区日本語学校
- (4) 日本語教育振興協会 理事・評議員校
- (5) 日本私立大学協会
- (6) 留学生採用に関心の高い企業
- (7) 経済団体
- (8) 官公庁

##### 3. 発表会の予定

本事業終了後、次の機会に発表を行う予定である。

- (1) 日本語教育振興協会 研究大会
- (2) 留学生教育学会 研究大会
- (3) 私立大学協会・大学コンソーシアム大阪・南大阪大学コンソーシアム
- (4) 全国または各都道府県が実施する専門学校連合会の諸研修

##### 4. 提言の予定

提言については、以上の機関に加え次の機関に向けて行う予定である。

- (1) 大阪府庁
- (2) 日本語教育振興協会

- (3) 文部科学省
- (4) 経済産業省
- (5) 法務省
- (6) 外務省
- (7) 民主党
- (8) 自由民主党 等